

令和2年度

森林・山村多面的機能発揮対策交付金

活動事例集



林野庁



活動事例集



掲載団体一覧

活動組織名（活動場所）	活動タイプ				掲載ページ
	里山	竹林	資源	機能	
苫東・和みの森運営協議会（北海道苫小牧市）	●				3 - 4
一般社団法人 名取エコの森 （宮城県名取市・岩沼市）	●	●	●		5 - 6
長岡の森ワーキンググループ（栃木県宇都宮市）	●				7 - 8
松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」 （千葉県松戸市）	●	●			9 - 10
鎌倉常盤山の会（神奈川県鎌倉市）	●	●			11 - 12
西沢川森づくりの会（愛知県新城市）	●		●		13 - 14
特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所 （京都府京都市北区・右京区）	●	●	●		15 - 16
丹治里山保全会（兵庫県多可町）	●		●		17 - 18
竹の駅あきたかた（広島県安芸高田市）	●	●	●	●	19 - 20
里山復帰（福岡県行橋市）	●	●			21 - 22

活動場所



苫東・和みの森運営協議会

(活動場所：北海道苫小牧市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●			

活動の経緯

平成 19 年 6 月、苫小牧東部地区（苫東）に天皇皇后両陛下（現上皇皇后陛下）をお招きし、第 58 回全国植樹祭が開催されました。しかし、その跡地である森の利活用方法については、確定していませんでした。

そこで、この場所が森林のもつ多面的な機能を継続して享受できる場となるよう、必要な整備活動を推進していく「苫東・和みの森運営協議会」を設立しました。

活動の内容

「苫東・和みの森運営協議会」は、「公益社団法人北海道森と緑の会」、「株式会社苫東」、苫小牧市、北海道、地域関係者などの団体・個人を会員として構成されています。本交付金を使った活動としては、会員による苗畑管理、枯損木の除去、間伐、枝打ちなどの森林整備が中心となっています。

また、この森林をさらに有効活用できるよう、他の助成金なども活用しながら、親子参加型の森づくりイベントや、森林整備体験活動なども行っています。

特徴的な取組

幼児とその保護者、車いすユーザーなど、様々な人たちが森林に親しむことができる場と機会を提供することを心がけています。林内からの材の搬出については、化石燃料の使用や重機の搬入などをなるべく控え、ばん馬による集積・運搬など、環境に優しく林床を傷めない方法で行っています。



イベント参加者との集合写真



活動地の森林の様子



間伐作業



伐採木の後処理

活動の成果

森づくりと言うと、木を植えることが着目されがちですが、植えて終わりではなく、その後の管理が大切です。苫東・和みの森運営協議会では、こうした管理を「植えない森づくり」と称して、その意義を市民に伝えています。

また、森づくりを通じた森林環境教育・研修活動の機会を増やしていくことで、市民の森づくりへの理解が深まるとともに、お母さんたちが主体となった活動（自主保育型森のようちえんの設立、自然体験指導者団体の設立）など、地域に新たなコミュニティの輪が広がってきました。

こうした活動を通じ、年間延べ1,000人もの人たちが森の整備と森林環境教育を楽しむ場として、この地を訪れるようになりました。



ばん馬による搬出作業



親子参加型の森づくり

今後の活動

令和3年には、この場所で全国育樹祭が予定されています。また、来年以降も継続して、市民・利用者による森林管理を実行していきます。

その他、胆振地域以外の人たちを対象とした林業体験活動の支援、修学旅行生やインバウンドの受け入れ、北海道外の森のようちえんの団体との連携、企業の研修の場としての利用などを通して、今後も引き続き、教育的効果が高く、人々の交流や地域コミュニティの維持・活性化に役立つような森の管理活動を展開していきます。



整備した森での森林体験活動



子どもたちと馬との森づくり協働作業

【問い合わせ先】 苫東・和みの森運営協議会

電話番号 0144-82-7860

メールアドレス tomatounagominomori@gmail.com

一般社団法人 名取エコの森

(活動場所：宮城県名取市・岩沼市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●	●	



活動の経緯

名取市および隣接する岩沼市は、集落住民の高齢化にともない、放置竹林が増加し、竹林、里山が荒廃してきました。そこで、地域住民と協働で「名取エコの森」を設立し、竹林の管理、森林の整備、特産物であるタケノコの生産、およびこの地域本来の多様な生物が生息する空間づくりなどを進めています。



活動メンバー集合写真

活動の内容

「名取エコの森」の主な活動は、竹の間伐や除伐、伐採竹の集積、処理場までの運搬です。細かい枝は、本交付金を活用して購入したチップパーで処理後、竹林へ敷設したり、土壌改良剤として近隣農家などに提供したりしています。



活動地の状況（遠景）

当団体では、放置・侵入竹林の初期段階の整備後、所有者の意向に応じ、継続的な維持管理や、タケノコや竹炭などの生産・販売の支援を行うことなどを通じて、地域の豊かな資源を有効活用することによって地域の活性化につながる土台づくりを進めています。



作業道の整備

特徴的な取組

「名取エコの森」で竹林の初期段階として、3年間程度の作業（密集した状態での竹林伐採・作業道の整備・伐採竹の処理など）を行った後、地権者・関係者が主体的に関われるところについては、管理を引き継いでいます。

管理を移行した場所では、地権者自らが主体的に行う継続的な手入れを通じて、美しい竹林景観の維持を行います。地権者等へ管理を移行した場合は、別の放置竹林の整備に移ります。



管理作業

活動の成果

竹林整備をすることによって、竹林の所有者だけでなく、隣接した医療施設や稲作農家などからも喜ばれ、地域住民の竹林整備や景観保全に対する関心が高まってきました。

また、放置竹林をタケノコの生える竹林に変えていくことで、タケノコ増産につながり、土地所有者から理解が得られ、地域住民の主体的な管理につなげていくことができました。

私たちの活動は口コミなどで広がり、積極的な広報はしていないにもかかわらず、今も多くの整備依頼が寄せられています。



伐採した竹の搬出



整備後の竹林内の様子



伐採した竹で作った竹炭



整備後の竹林内の様子

今後の活動

竹林管理の意義や利用の可能性について、より多くの人に知ってもらうため、竹林の保全管理の活動を継続して行い、地域の里山景観の保全に貢献していきたいと考えています。あわせて、竹について関心をもつ多くの人と連携し、伐採した竹の活用方法について、地域の特性を踏まえて検討し、新たな活動へと進めていきます。

【問い合わせ先】 一般社団法人 名取エコの森

電話番号 090-5350-2418 (今野)

ファックス 022-382-3267

メールアドレス natorieconomori@touhoku.me

長岡の森ワーキンググループ

(活動場所：栃木県宇都宮市)

活動タイプ

里山

竹林

資源

機能



活動の経緯

栃木県宇都宮市にある長岡樹林地は、市の中心部にありながら、昔と少しも変わらない里山の姿を見ることができる場所です。

アカマツ混じりのコナラ林を中心とした樹林地内には、ハンノキの生える湿地が広がり、多くの絶滅危惧植物やトウキョウサンショウウオが見られる貴重な自然となっています。

平成3年、都市化の進展にともない、緑地が年々減少して行くことに危機感を抱いた市民と宇都宮市は、「財団法人グリーントラストうつのみや」を設立し、長岡樹林地を第1号の保全契約地として、ボランティアによる保全活動を開始しました。

活動の内容

長岡樹林地では、地形の特色や動植物の生息状況、土地所有者の意向などを総合的に勘案し、①人の手を加えず放置しておく区域、②残すべき立木には手を加えず、巨木の森を目指す区域、③従来の里山と同様の手入れを行い、樹木の若返りを図る区域、の3つに分けることにしました。②③の区域においては、本交付金を活用し、必要な下刈り、枯損木の除去、間伐などの管理作業などを行っています。

特徴的な取組

大きな特徴は、ほぼ毎年、0.15ha 前後の皆伐更新を計画的に行うことで、樹林地内の若返りを図るとともに多様な森林環境を創出していることです。萌芽更新が基本ですが、伐採地に植栽する場合は、樹林地内の実生苗を使用しています。また、樹林地内で落ち葉を



活動メンバー集合写真



中央部にある溜池（松山溜）と伐採跡



コナラ大木処理



落ち葉さらい

集めて腐葉土を作り、隣接する畑でのジャガイモやサツマイモなどの栽培に利用するとともに、伐採した樹木の大部分を薪ストーブ愛好家に譲渡し、浄財を保全活動に活かしています。さらに、定期的にモニタリングを行い、保全活動計画の見直しに役立てています。

活動の成果

かつてはアズマネザサに覆われ、薄暗く地形も判らないような雑木林でしたが、保全活動を行い、樹林地に手を加えることによって林内が明るく、見通しが良くなり、動植物相にも変化が見られるようになりました。多くの動植物が復活してきており、ヤマツツジ、ヤマユリをはじめとした様々な植物が开花、それらを見るために林内を散策する人も増えています。また、保育園や小学校が自然体験や環境学習を目的に定期的にご利用しています。



薪集積所



落ち葉踏み



伐採前



伐採後



下刈り前



下刈り後

今後の活動

近年、高樹齢化にともない樹林地内では倒木、隣接部では危険木が増えています。一定範囲を伐採して林の若返りを図るとともに、「公益財団法人グリーントラストうつのみや」と連携し、高齢化・大径木化にも対応した「森づくり」を実施していきたいと考えています。

【問い合わせ先】 長岡の森ワーキンググループ	
電話番号	028-658-3045 (村岡)
メールアドレス	muraoka@snow.ucatv.ne.jp
ホームページ	http://www.green-trust.jp/base/nagaoka

松戸里やま応援団 「甚左衛門の森の会」

(活動場所：千葉県松戸市)

活動タイプ

里山

竹林

資源

機能



活動の経緯

「甚左衛門の森の会」は、松戸市の残存森林の維持保全を目的として、平成 15 年に結成された「松戸里やま応援団」の 1 グループとして、平成 29 年に発足しました。活動地は、千葉県松戸市の高塚新田地区の一面 0.9ha で、針葉樹と落葉・常緑広葉樹の混交林で、一部マダケ林を交えた変化のある森です。この場所は、主要道路に面し、周囲に畑や民家が点在しています。景観保全、枯損木・風倒木の管理などの観点からも整備が必要と考え、松戸市や地権者とも協議をして、活動を進めていくことにしました。

※ 「松戸里やま応援団」では、市内 10 数か所の森でこうしたグループが活動を展開しており、ボランティア会員はおよそ 200 名にのぼります。

活動の内容

活動前は樹木が密生し雑草木も繁茂して、立枯れ木、倒木も目立ち、不法投棄のゴミが散乱していました。毎月第 2、第 4 水曜日の午前中を定例活動日と定め、雑草木・竹藪の刈払い、密生した立木の間伐、立枯れ木・倒木の除去、観察・作業道の整備などを行っています。現在は令和元年の台風被害からの復旧作業を主体とした活動を行っています。

特徴的な取組

「甚左衛門の森の会」の母体である「松戸里やま応援団」は、松戸市が都市部の貴重な緑を保全することを目指して設立した「松戸市緑推進委員会」の発案で始まった「里やまボランティア入門講座」の受講生によって組織されました。

森林の保全活動は、「松戸ふるさとの森の会（森林地



主な活動メンバー



活動地の入口



作業前のミーティング



活動地内の倒木の様子

権者の会)」の協力を得て「松戸里やま応援団」が行っています。

当会も参画する、この「松戸里やま応援団」では、毎年4月～5月に開催されるイベント「オープンフォレスト in 松戸」でボランティア活動を松戸市民にアピールし、新たな会員の増加に努めています。

活動の成果

林床に繁茂したアオキやヤツデなどの刈払い、密生していた樹木の間伐や除伐を行い、林内に日光が差し込むようになりました。また、除伐・間伐・下刈りなどの結果、ギンランなどの希少植物の生育も確認されるようになっています。

立枯れ木や倒木の処理を続けていたところ、昨年の台風により甚大な被害を受け、目下その復旧作業に取り組んでいます。

千葉県里山林保全整備推進地域協議会主催の「チェーンソーによる伐採作業及び安全作業の研修会」も当森を会場に開催されました。専門講師の指導のもと、参加者がチェーンソー使用の安全研修を兼ねて、サワラなどの大径木の伐採技術を習得しました。

今後の活動

台風被害からの復旧作業や森の整備を進め、植物や小動物の豊かな生息地としての里山を復活し、近隣住民や子どもたちが身近な自然を気軽に楽しめる森をつくり、地域の活性化を図りたいと思っています。また、生涯大学、地域活躍塾などの受講生を積極的に受け入れ、里やま体験の場を提供し、市民のボランティア活動への参加の動機づけの機会となればと考えています。



倒木処理作業の様子



台風被害木の処理作業風景



掲示板の設置作業



オープンフォレストの様子

【問い合わせ先】 松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」

電話番号 047-342-6261 (村井)

メールアドレス muraiyukio0727@tb3.so-net.ne.jp

鎌倉常盤山の会

(活動場所：神奈川県鎌倉市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●		

活動の経緯

神奈川県鎌倉市にある国指定史跡北条氏常盤亭跡を囲む常盤山緑地には、都市化による影響を受けていない手つかずの歴史的な資産や、樹齢 200 年を越す山桜や楓などを始めとした豊かな自然が残っています。

近年、真竹や篠竹(アズマネザサ)、孟宗竹が侵入し、固有種の樹木を枯らし、行政による植生管理も追いつかない状況が続いていました。平成 29 年 6 月、常盤山を里山として再生したいという思いをもった人たちが集まり「鎌倉常盤山の会」を発足しました。

活動の内容

「鎌倉常盤山の会」は、神奈川県有緑地 1.3ha (八雲神社裏山、峯山地域) で、本格的な竹林整備活動を行っています。また、同じく神奈川県有緑地である常盤一向堂においても、真竹林の間引きや植生の管理を継続しています。鎌倉市有地では、北条氏常盤亭跡東側ルート・御所ノ内ルートの散策路の整備、御所ノ内地域の森林整備活動を行っています。

また、実生樹による雑木林再生を目指し、雑草木を刈払い、固有の樹木が残っている部分は、樹木から半径 5m の範囲の竹の本数が 3 年間でゼロとなるように侵入竹を除去しています。

特徴的な取組

「鎌倉常盤山の会」は、3 つの団体 (「常盤町内会有志」、「鎌倉峯山の会」、「NPO 法人鎌倉みどりのレンジャー」) と連携して交付金を申請し、平成 30 年に本格的な活動を開始しました。

本交付金をきっかけとして、町内会をはじめ、多く



活動メンバー集合写真



活動地の自生樹木



山藤の蔓処理 (八雲神社裏山)



他団体との連携による里山林保全作業

の地域住民が里山林整備に参加し、効果を上げつつあります。

活動の成果

当初、孟宗竹、篠竹の侵入と繁茂が放置されていたために、山全体が荒れ、自生の樹木は瀕死の状態となっていました。しかし、本交付金を活用した竹林などの管理を通じて、生物多様性に富む、明るい森が広がってきました。

地元常盤町内会の森林整備活動への関心が高まり、地域からの参加者が徐々に増えてきました。このことから、昔の常盤山の自然の状況などについて聞く機会が増え、目指すべき里山再生の方向性がより具体的になってきました。



倒木の片付け作業(八雲神社裏山)



活動についての研修の様子



八雲神社トレイル整備前



八雲神社トレイル整備後

今後の活動

住民の高齢化が進んでいるため、4年目以降も活動を継続できるように、次代を担う後継者を育成しながら活動を進めていきます。真竹や篠竹、孟宗竹の駆除を優先し、常盤山の植生の保全と市民による利活用を促進する取組を継続していきたいと考えています。

【問い合わせ先】 鎌倉常盤山の会

電話番号 0467-31-3579

メールアドレス tokiwakomachi@gmail.com

フェイスブック <https://www.facebook.com/kamakuratokiwayamanokai>

西沢川森づくりの会

(活動場所：愛知県新城市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●		●	

活動の経緯

新城市豊岡地区は、地域面積の80%以上をスギ・ヒノキの人工林が占めています。全国的な課題でもありますが、この地区においても、地域の森林管理に対する関心が薄れてきています。また、相続した山林の境界が不明なことから、森林整備が進められないといった問題も生じています。

このことから、平成 25 年から地区の森林所有者有志が中心となり、新城市の補助事業を活用した森林境界確定を進めてきました。こうした取組の中で、森林の利活用・整備を行っていききたいという声上がり、平成 26 年 3 月に「西沢川森づくりの会」を設立し、本交付金を活用した活動を始めました。

活動の内容

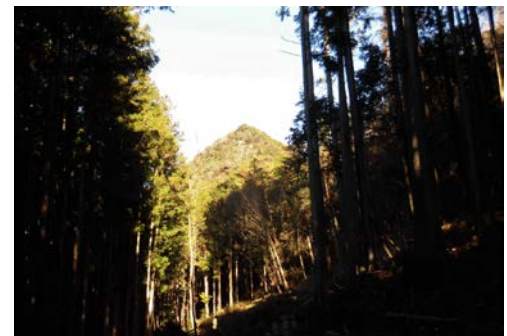
現在の主な活動は、間伐、林道沿いの整備、間伐材の活用（チップ、薪、ボイラー燃料など）です。また、この地区には、昭和 6 年に国の「名勝天然記念物」に指定された「鳳来寺山」の登山道（東海自然歩道）があることから、ハイキングなどのレクリエーション環境向上のために、地域住民と共同で、東海自然歩道に隣接する西沢川沿いを中心に、森林景観の再生・維持活動を実施しています。

特徴的な取組

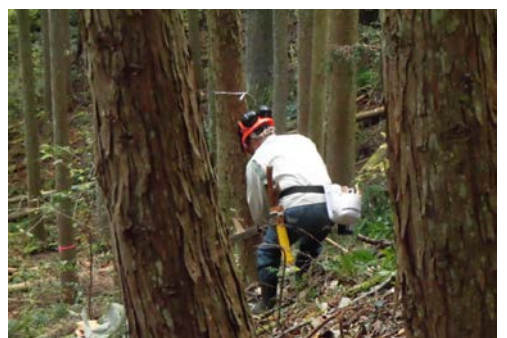
森林を観光資源として活用して地域を活性化させるため、地域住民を巻き込んだ森林整備を行っています。また、より多くの人たちの活動への参加を促すとともに、安全な森林管理を進めていくため、地元山主向けの講習会（立ち木評価・安全講習会）を、外部専門家な



活動メンバー集合写真



活動地の様子（鳳来寺山の見える風景）



間伐作業



ロープウィンチ集材作業

どを招いて地元で開催しています。

活動の成果

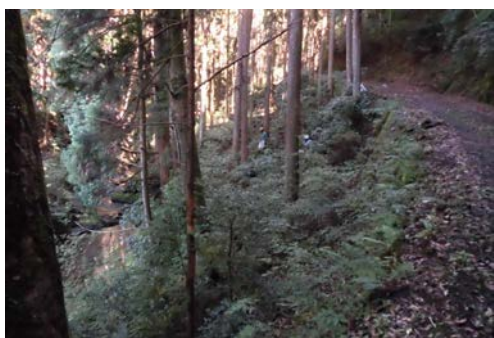
鬱蒼として薄暗かった森林に光が差し込み、木々の間から遠くの景色も見通せるようになってきました。その結果、散歩に訪れるのをためらっていた地区の人たちも足を運ぶようになりました。東海自然歩道沿いを流れる西沢川にも光が入り、減ってしまった魚たちもまた姿を見せるようになり、元気な野鳥のさえずりも聞こえるようになりました。



プロット調査



間伐とチェーンソー研修



整備前の様子



整備後の様子

今後の活動

取組開始当初は、森林の超過密状態を解消するため、間伐率を下げることに重点をおいていました。今後は、より適正な状態にしていくのに必要な追加の間伐、林道から見える森林で手を付けていない場所の対応などを中心に、継続的に取り組んでいきたいです。あわせて、伐採木の利活用についても考え、さらなる地域活性化を目指していきます。

【問い合わせ先】 西沢川森づくりの会

電話番号 090-4863-3299 (伊藤)

メールアドレス naoitoh.shintoyo@gmail.com

特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所

(活動場所：京都府京都市北区・右京区)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●	●	



活動の経緯

京都市北区の左大文字周辺は、かつてはアカマツが広く分布しており、マツ林が形成する美しい景観は、近隣の寺院の庭園などの借景景観となっていました。しかし、マツノザイセンチュウによるマツ枯れの影響で、ソヨゴ、コジイといった常緑広葉樹が生長し、借景景観は大きく様変わりしてきました。

一方、京都市右京区の嵯峨嵐山周辺は、尾根にアカマツ、山裾には竹林、これに稲穂たなびく水田が続く美しい風景が形成され、「歴史的風土特別保存地区」に指定されています。こうした人里に近い里山景観は、地域の人たちの営みとともに維持されてきました。しかし近年、生活様式の変化や高齢化などにともない、現在、その景観の存続が危ぶまれています。



活動メンバー集合写真



活動前の状況（左大文字周辺）

活動の内容

左大文字の民有地の森林を対象に、ソヨゴなどの危険木の伐採、雑草木の刈払いを行い、アカマツが健全に生育できる環境づくりを行っています。また、森林景観の向上と材の利活用の検討も行っています。

枯竹、倒竹の除去と古い竹の伐採などを行いながら、整備後3年を目標としてタケノコが採取できる森林資源利用の場として構築を進めています。また、伐採した竹は、チップ処理により発生した竹チップを作業道へ敷設しています。



活動前の状況（嵯峨嵐山周辺）

特徴的な取組

嵯峨野の竹林は、京都府で絶滅寸前種に指定されている、ホンゴンソウ、ヒナノシャクジョウ、シロシャクジョウなどの植物がまとまって見られることが特徴と



活動地へのアクセス

なっています。しかし、観光地以外の竹林は人の手が入らず荒廃した環境となっており、枯竹、倒竹が目立ち、一定程度の光環境（開空率）を好む、絶滅寸前種の生育環境および景観の悪化が見られます。そのため、管理作業を進めつつ、竹林内の光環境（開空率）や土壌環境なども適宜モニタリングを行うことで、こうした希少種にも適した環境づくりを進めています。

活動の成果

左大文字周辺では、アカマツ林の再生のために常緑広葉樹の除伐などを進めた結果、明るくなった森林環境に、コバノミツバツツジなどの花が見られるようになりました。

また、竹林管理を進めることにより、地域の観光資源（竹林景観）の向上とともに、生物多様性の回復にもつながっています。特に今回の事業実施地は市有林であるものの、財政状況が厳しい中、京都市では十分な管理が行えていないところです。このことから、市からも、環境保全のための協定を結び、当団体や地域住民で管理を行うことへの感謝の声をいただいています。

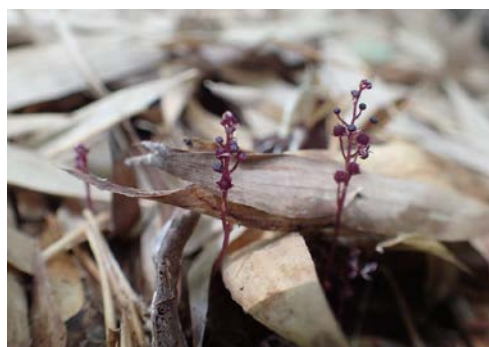
今後の活動

山に入って手入れを行うことの必要性について、より多くの人に知ってもらうため、多様な活動を展開していきます。また、こうした活動を通じて、地域コミュニティのつながりの強化も図っていきます。

また、循環的で継続的な地域づくりを構築するため、嵯峨野の竹林を再生し得たタケノコを使って、京タケノコカレーを作成し、1缶販売ごとに50円の環境保全活動に役立てる取り組みに協力しています。



希少種調査



希少種（ホンゴウソウ）



活動を紹介するイベントの様子



市販されている京タケノコカレー

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所

電話 番号 075-746-3118

メールアドレス hitomorid@gmail.com

丹治里山保全会

(活動場所：兵庫県多可町)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●		●	

活動の経緯

丹治集落は、53世帯、人口200名余りの集落で、過疎化・高齢化が急速に進行しています。近年、集落周辺の山林の手入れが行き届かず、耕作放棄された農地も目立つようになってきました。また当集落の人たちの間で古くから続いてきた「日役（ひやく）」という共有地（集落林）などの管理作業も滞り始めました。

当集落には、広葉樹林も多く、その中に、五輪さんの石塔や三善堂（寺院）の跡地などの名所が点在しています。また、近くには町立桜公園もあり、家族連れをはじめ多くの方が利用しています。こうしたことから、「丹治里山保全会」が森林を適切に手入れすることで、周辺からの来訪者にとっても魅力ある里山林としていくこととしました。

活動の内容

繁茂した雑木の除伐や間伐、下刈りなどにより里山景観の改善を図っています。また、伐採木を薪にして近隣施設などで販売しています。

特徴的な取組

集落では、本交付金を活用した活動を通じて、集落林の維持管理を集落住民が主体的に行っています。平成28年から30年の3か年は里山林整備を行い、明るい里山の景観を再生することに注力しました。令和元年からは資源利用にも取り組み、本交付金を活用して購入した薪割機を使って薪を生産し、その販売を主体とした収入で、財源的にも安定した活動を目指しています。



活動メンバー集合写真



段積み講習会



除伐作業



段積み作業

活動の成果

活動には集落住民を中心に 30 名余りが参加しており、この活動を通じて、森林に対する認識が高まるとともに、地域の活性化につながっています。隣接した桜公園の花見、散策や山菜採集などで、集落内外の多くの人を訪れるようになり、地域を代表する癒しの場となりつつあります。集落外の人々との交流を通じた地域づくりにより、集落自治の推進や地域全体の活性化にも寄与しています。

現在、「多可町森林・林業ビジョン」の策定作業が進められています。この中でも本交付金を活用した里山整備を行う団体として「丹治里山保全会」の活動が紹介されるなど、地域における認知度・関心度も高まってきました。



薪割および薪詰め作業



薪詰め作業



現場の状況（作業前）



現場の状況（作業後）

今後の活動

山に入って手入れを行うことの意義について地域で共有できるようになってきたことから、今後も、草刈り・除伐などの継続した整備を展開するとともに、地域コミュニティのつながりの強化を図り、魅力ある里山景観の維持・再生を進めていきます。

【問い合わせ先】 丹治里山保全会

電話番号 0795-36-0153（廣畑）（または 090-5661-9202）

メールアドレス m-hirohata@ares.eonet.ne.jp

竹の駅あきたかた

(活動場所：広島県安芸高田市)

活動タイプ

里山

竹林

資源

機能



活動の経緯

広島県安芸高田市の林野面積率は約 80%であり、里山林などに繁茂する孟宗竹や真竹の管理が大きな課題となっています。この課題を解決するために「竹の駅あきたかた」を発足し、市内の他の団体（5 団体）と連携・協力しながら、本交付金の交付を受けて、市内の竹林管理を進めていくことにしました。

活動の内容

「竹の駅あきたかた」では、主な活動として、放置・侵入竹林の伐採を進めています。伐採竹については、竹チップ・竹パウダー・竹酢液の製造・販売や、竹炭を焼成し新たな利活用の検討を行っています。また伐採竹は、この地域でも深刻な有害獣の防護柵としても活用しています。

あわせて森林整備を安全に行うための講習会や正しい竹林整備のための講演会などの開催、目的別の竹林の仕立て方やそのための整備手法などを広く知ってもらうための研修会などを開催し、地区内で活動する団体の技能向上にも取り組んでいます。

特徴的な取組

広島県安芸高田市で竹林整備を実施する、6つの活動組織との連携・協力のもと、竹林整備に係る事務処理を一本化、装備の共有、講習やイベントの共同開催、人材の相互交流などを進めています。

また竹をキーワードにした産業起こし、地域起こしを実践しています。



活動メンバー集合写真



活動地の様子



竹林の伐採作業



竹林整備研修会の様子

活動の成果

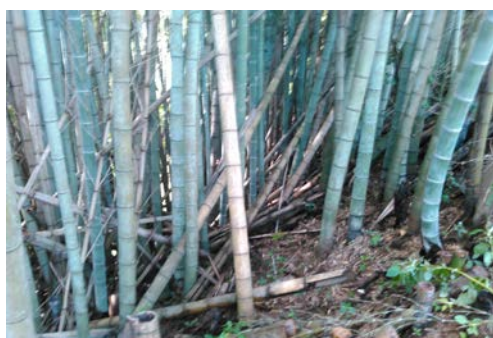
林産資源（竹林）を活用した、新たな商品開発・販売（竹炭生産、国産メンマ生産、高品質タケノコ生産など）を通じて、地域活性化や都市部住民との交流が促進されました。また不在村地主（広島市内、埼玉県など）からも、竹林の管理依頼が来るようになりました。



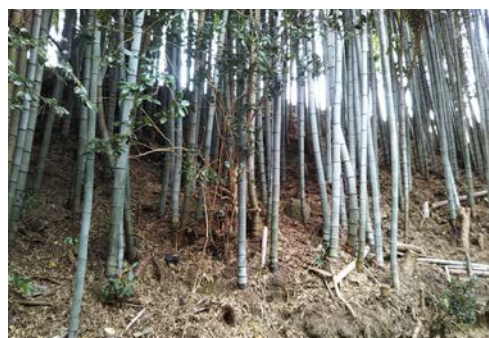
メンマの販売の様子



竹炭の販売の様子



竹林整備作業前



竹林整備作業後

今後の活動

市内の遊休施設などを利用し、多様な竹商材の集荷・生産を行います。また、ネット上で市内住民の竹林整備の要望と、竹林整備ボランティアとのマッチング業務（有償で竹林整備を行う）として、竹林整備ポータルサイトの運営を検討しています。

竹林に親んでもらえるようなイベントの企画・開催や、小中学生に対する環境教育、福祉団体との「竹福連携」を図っていきたいと考えています。

【問い合わせ先】	竹の駅あきたかた
電話番号	090-2295-8375 (谷川)
メールアドレス	hiroyuki15dec@gmail.com
ホームページ	http://akitakatabamboo.com/

里山復帰

(活動場所：福岡県行橋市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●		

活動の経緯

この地区は、アカマツ林から遷移した雑木林が広がり、竹林が隣接しています。長年放置されてきた結果、竹（孟宗竹）が雑木林に侵入するとともに、生活道路沿いでは、放置竹林が道路を被うことによる交通障害が発生していました。また、林内への不法投棄の深刻化、景観の悪化、防犯上の懸念など、様々な問題が顕在化し、適切な管理が必要な状況にありました。



活動ボランティアの皆様との集合写真

活動の内容

活動を始めた当初は、重機などを使って、活動地内の作業道の整備を優先的に行いました。現在は、雑木林内の侵入竹の伐採・処理、雑木の除伐や下刈り、風倒木の伐採・処理、竹林の管理（皆伐・間引き）・活用（チップ化・竹炭づくり）などを行っています。



活動地の状況（竹林）

特徴的な取組

フィールド内の植生や地形などを勘案し、「ふれあいの里山」「椿の森」「山桜の森」にゾーン分けし、ゾーンごとの目標や位置づけなどをふまえた管理を進めています。活動地区の一角には、ヤブツバキが群生しています。このほか、ヤマザクラ、クスノキ、シロダモ、コナラ、スダジイなどの大木や、リョウブ、シャシャンボ、ナナメノキ（ナナミノキ）、ネジキ、カクレミノ、ザイツリボク、ミミズバイなども見られます。多様な樹種が生育する生物多様性に富んだ森であることから、この森の魅力を最大限に発揮できるような森林整備を進めています。また、生物多様性の保全などの観点から、あえて人為的な関与を行わない場所も設けています。



チップ化の作業



伐採した竹の運搬作業

活動の成果

住宅地に近い竹林について重機を使って伐採・伐根・搬出を行った結果、周辺の竹の侵入の勢いが著しく弱まってきました。

雑木林の見通しも改善し、明るい森になってきて、エナガの群、アオゲラの姿やフクロウの声も確認できるようになりました。

なお、本交付金を活用して切り出した竹は、北九州の代表的なイベント「小倉城竹あかり」で使用する竹灯籠として活用されています（「小倉城竹あかり」で使用する竹灯籠の材料となる竹の一部は、「里山復帰」の竹林管理活動で出た竹です）。こうしたイベントを通じて、竹林整備への関心が高まっています。



竹林の管理作業



除伐、拡幅して整備した林内作業道



小倉城竹あかりのイベントの様子



活動ボランティアの方々

今後の活動

これまでに伐採した風倒木や枯損木などでまだ林内に残っているもののうち、今後の作業の支障になりそうなものは、玉切りしたうえで搬出を進めます。また、林内散策路の整備を進め、森林の魅力をより多くの人に知ってもらう場を創出していきます。あわせて、将来を担う子どもたちが、森林と気軽にふれあい楽しめる場として、活動地の一角に、「アスレチックの森」の整備を進めていきます。こうした活動を、都市部からのボランティアなども積極的に受け入れながら実施していきます。

【問い合わせ先】 里山復帰

電話番号 090-3733-5051（有松）

フェイスブック <https://www.facebook.com/groups/409793403094855>

メールアドレス shuichi@arimatsu.jp



令和2年度

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集

発行 林野庁

作成 公益財団法人 日本生態系協会